

1 事業名 山陰地区青少年教育施設連携事業「さんべだヨ 先生集合」

2 必要性

国立青少年教育振興機構の中期計画（平成23年6月）に、「青少年をめぐる諸課題への円滑な対応を図るため、青少年教育に関する国内外の関係機関・団体等との連携を促進し、関係機関とのネットワークを構築する」とあり、青少年教育関係機関・団体等の全国的なネットワークづくりや地域のネットワークづくりを推進する方策が示されている。

一方、いじめや不登校、学級崩壊等、現代の学校は人間関係に関わる諸問題を抱えている。また、核家族化や少子化など、社会状況が大きく変化する中で、子どもたちが豊かな人間関係を築く力を日常生活の中で自然に身に付けることが難しくなっている。

このような状況下で、児童・生徒の人間関係づくりやコミュニケーション能力の育成を推進していくことが強く求められており、学校で日々直接、児童・生徒の指導にあたる学校教員への期待は益々大きくなっている。

そこで、本施設がリーダーシップをとり、山陰地区の青少年教育施設の連携を図り、学校教員を支援する事業を展開することは、国立青少年教育振興機構の施設として積極的に取り組むべきものであると考える。

3 趣旨

本事業は、本施設の教育事業、「青少年教育指導者ミーティング」で発案した、山陰地区青少年教育施設（5施設）と島根大学教育学部教育支援センターが連携して企画した事業であり、PA（プロジェクトアドベンチャー）理論を柱とした2泊3日の体験的なプログラムを通して、学校教員が「人間関係づくりの力を身につける」ことをねらいとしている。

さらに、活動を通して山陰地区の教員の交流を図り、教員間の広いネットワークを構築することもねらいとしている。

4 共催・後援

鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、
島根県立青少年の家（サン・レイク）、島根県立少年自然の家
鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、島根大学教育学部附属教育支援センター

5 期日 平成26年8月17日（日）～平成26年8月19日（火）

（会場 国立三瓶青少年交流の家）

6 参加者

(1) 募集対象・人数

島根県・鳥取県内の小学校・中学校・高校の教職経験10年未満の先生（30名程度）

(2) 参加人数

8名（島根県 7名、鳥取県 1名）

7 参加経費

5,000円

（食事代3,425円、教材費165円、シーツ代200円、保険代95円、情報交換会費1,115円）

8 事業の内容

(1) 事業の特色

本所の教育事業である「青少年教育指導者ミーティング」において、山陰地区青少年教育施設（5施設）が連携して企画した事業である。また、実施にあたっては、5施設のスタッフが分担・協力して運営するものである。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

PA理論を基礎とした2泊3日の活動プログラムを提供し、参加者が体験的に「人間関係づくり」について学ぶことができるようにした。また、「2学期の学級開きの具体的な授業場面」を考える活動を取り入れることで、学びが実践に繋がるように配慮した。

(3) 広報のポイント

島根県教育委員会・鳥取県教育委員会・島根大学教育学部の後援を受け、島根県・鳥取県のすべての小中学校・高等学校に広報した。また、島根県及び鳥取県の新規採用教員研修・その他の研修において、広報する機会をいただいた。

(4) 日程表

8月17日(日)					13:00~13:30	13:30~14:00	14:00 ~ 16:30	17:10	17:40~19:30	20:00~22:00	23:00	
					受付	オープニング	研修① PAを体験しよう!	夕飯のつどい	夕食・入浴 休憩	交流会 語り	就寝	
8月18日(月)	6:30	7:00	7:20	7:40~	9:00 ~ 14:00		14:00~14:30	14:30~16:30	17:10	18:00~20:00	20:00~22:00	23:00
	起床	朝のつどい	掃除	朝食	研修② 協力して登る! グループワーク登山 男三瓶)※小雨決行		休憩	研修③ PAって何?	夕飯のつどい	BBQを 囲んで	入浴 就寝準備	就寝
8月19日(火)	6:30	7:00	7:20	7:40~	9:00	9:30 ~ 12:00	12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~14:30			
	起床	朝のつどい	掃除	朝食	退所点検	研修④ 授業で使えるPA	昼食 休憩	ふりかえり	エンディング 解散			

(5) 運営のポイント

- ・5施設のスタッフが研修内容毎に分担してファシリテート、担当以外の研修の時は、適宜補助に回るようにして、一施設の加重負担とならないよう配慮した。

(6) 安全管理のポイント

- ・個々の健康状態の把握。
- ・GW（グループワーク）登山にあたっては、事前の登山計画作成と登山に関する安全指導。
- ・野外炊飯（バーベキュー）では、手順の説明・用具の取扱と安全管理の指導。

(7) アンケートの満足度・おもな記述

満足度（参加者8名）

満足8名（100%） やや満足0名（0%）

やや不満0名（0%） 不満0名（0%）

- ・PAと言われ、ピンと来ず、何となく始まった最初と比べ、今では、体験の中でこそ気付ける学びの大切さを肌身で感じる事ができ、来させていただいてよかったなと思っています。本当に言葉だけでは伝わらないことが、やってみる、感じてみることで気付くことができる・・・ その大切さを改めて学ぶことができました。「2学期が早くこないかなあ・・・」

と思っているのが今の気持ちです。「させる」だけでなく「いっしょにやってみる」中で、またさらに子どもたちから学びつつ、子どもと共によいクラスを作っていきたいな、と思います。



活動毎に Being の手法でふり返り

・今回、PAという初めて知るプログラムに参加して、今後の学級経営に活かせる部分が多く見付き、よい勉強になりました。1学期に感じた学級経営の不安などを素直に出せる場を設定していただいたことで、「今の思いを素直に伝えよう。」そして、「素直に、もっと子どもたちと楽しもう。」という気持ちが湧いてきました。これからは、「先生もいっしょに考えるよ。」「いっしょに楽しもうよ。」という気持ちで、子どもたちと向き合っていきたいです。今回、この研修に参加して、もっと仲間づくりについて学びたいと思ったので、また機会があればぜひ参加したいです。



PAのアクティビティを体験

・3日間ありがとうございました。もっと勉強していきたいと思いました。たくさんの方に教えていただいたこと、話を聞いたり聞いてもらったりしたことを自分の力にしたいと思います。

・大変有意義な3日間だったと思います。PAについての理論を（ほんの少しでしたが）、教えてもらえたことや、アクティビティをしながら、大切なことや、ポイント等を教えてもらったことで、少し理解が深まりました。

・3日間を通して、仲間を意識したPA研修やグループワーク登山などの実体験の場もあり、デスクワーク型の研修よりもより深めることができる研修であった。体験活動の重要性もより感じた。自己研鑽も含め今後も積極的に取り組んでいきたい。

・とても充実した3日間で、いろいろな気づき・発見・学びができ満足感でいっぱいです。



GW登山で男三瓶（1,126m）登頂

10 成果と今後の課題

<成果>

・参加者の満足度が高く、研修の成果を学級づくりの実践に繋げていこうとする意欲が見えた。

・山陰地区の青少年教育施設が事業立ち上げについて、互いに連携・協力して、「人間関係づくり」のプログラムを作成することができた。

・実際に共同で事業を運営していく中で、施設職員の研修も深まった。

・次年度以降、本事業を展開していく上でのモデルができた。

<今後の課題>

・今回は、事業の立ち上げが5月下旬、チラシ配布が7月上旬であり、事業の内容や意義を広報する期間が短かったため、参加者を十分に確保することができなかった。次回以降は、十分な期間があるので、5施設で地域を分担したり、各県の教育委員会に働きかけたりするなど、広報戦略を練り直し、参加者の確保に努めたい。

・また、実際の事業運営にあたって、地理的に離れている施設間の連携の難しさも感じた。今後、できるだけ各施設の負担にならない形で、定期的な打合せの機会を持つなど、効果的な連携の在り方についても考えていく必要がある。

11 普及計画・普及実績

成果については当施設ホームページで紹介する。また、事業報告書を作成し、青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し成果の普及を図る。

(担当：企画指導専門職 荒金 岳登)